

(別紙様式 = 中学校用)

都道府県番号	33
都道府県名	岡山県

【 】
 *重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	倉敷市立連島中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	5	6	1	18	45
生徒数	176	180	205	1	562	

研究の概要

(1) 研究主題

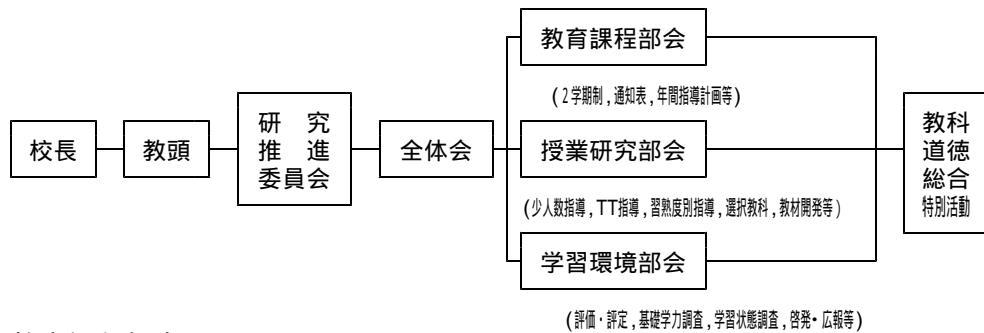
「自ら学び、考え、解決しようとする力をもった生徒の育成」

(2) 研究主題設定の趣旨

本校では、これまで「未来に向かって、心豊かにたくましく生きる生徒」を目指す生徒像として設定し、「総合的な学習の時間」と「絶対評価」の実践的研究を中心に取り組んできた。3年間以上にわたり「総合的な学習の時間」の活動を続けてきた結果、興味や関心のあるものに主体的に取り組み、追求していこうとする生徒の姿を数多く見ることができた。しかし、「総合的な学習の時間」の活動を進めていく上で、各教科での基礎・基本の定着の必要性を感じるようになった。そこで、個に応じた指導の充実に努めることにより、基礎・基本を確実に定着させ、「自ら学び、考え、解決しようとする力をもった生徒の育成」のために「確かな学力」の向上をめざし、生徒一人一人の実態に応じた指導の一層の充実に図るための実践研究を進めていくことにした。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫



教育課程部会

- 生徒の学力向上を指導・支援する教育課程編成の研究(2学期制を踏まえて)
- * 2学期制への移行による授業時数の確保
- * 全教科年間指導計画の見直し
- * 学校行事の見直し

授業研究部会

- 個に応じた指導のための指導方法や体制の工夫改善
- 選択教科の指導の工夫改善による基礎・基本の徹底及び発展的な学習指導の研究
- * 少人数・TT授業や習熟度別授業の実施
- * 選択教科の工夫改善
- * 全教員の公開授業実施
- * 教材の開発

学習環境部会

- 生徒の指導に生かせる評価・評定の研究
- * 評価・評定の工夫改善

* 基礎学力調査
 全体会(校内研修会)
 全体協議

(2) 研究の実際

研究の重点内容

- 生徒の学力向上を指導・支援する教育課程編成の研究
- 2学期制への移行：授業時数の確保，保護者へのアンケート，小学校との連携
- 全教科年間指導計画の見直し
- 学校行事の見直しと再構築

学年	1					2					3				
	1学期	2学期	3学期	前期	後期	1学期	2学期	3学期	前期	後期	1学期	2学期	3学期	前期	後期
授業 日数	67	77	52	93	103	70	77	52	96	103	70	77	47	96	98
総 時数	1103		1102			1120		1119			1091		1090		
授業 時数	326	401	261	465	542	340	401	257	479	538	334	401	241	473	523
行事 時数	988		1007			998		1017			976		996		
欠 時数	29	9	12	34	16	29	9	16	34	20	34	9	6	39	10
	50		50			54		54			49		49		
	23	21	21	24	21	26	21	21	27	21	27	21	18	28	17
	65		45			68		48			66		45		

平成15年度教育課程の課題から、「3学期制」と「2学期制」での授業時数の比較を行った。

個に応じた指導のための指導方法や体制の工夫改善

- 少人数・TT授業や習熟度別授業の実施
 - 少人数指導...理科・英語
 - 理科 第1学年(6クラス) 週3時間
 - 第2学年(5クラス) 週1時間
 - 英語 第1学年(6クラス) 週3時間
 - 第3学年(6クラス) 週1時間
 - 1年生 後期, 理科・英語 習熟度別少人数指導

TT授業...数学

- 第3学年(6クラス) 週3時間
- 第2学年(5クラス) 週3時間のうち1時間
- 单元ごとに2クラス3コースの習熟度別少人数指導

コース別学習について

目的

- (1) 生徒の能力・適性に応じ確かな学力をつける。
- (2) 基礎的・基本的内容の習熟を徹底させる。
- (3) コース選択時に、自己の能力や適性を把握させ、自ら進んで学習する態度を身につけさせる。

方法：生徒の希望を優先し、次の3コースを編成する。

- (1) 正負の数基礎コース
 - (2) 正負の数基礎計算コース
 - (3) 正負の数応用計算コース
- 各コースごとに教員が1名担当する。

指導の内容

正負の数基礎コース
 正の数・負の数の意味
 正負の数の大小

正負の数
 基礎計算コース
 加減計算
 乗除計算

正負の数
 応用計算コース
 加減乗除混合計算

- 全教員の公開授業実施
 - 選択教科の指導の工夫改善による基礎・基本の徹底及び発展的な学習指導の研究
 - 【1年】後期 2時間
 - 選択 A (国語・社会・数学・理科・英語) ... 5教科 8講座から1講座
 - 選択 B (音楽・美術) 2教科 2講座から1講座
 - 【2年】前期 2時間 後期 3時間
 - 前期 選択 A (国語・社会・数学・理科・英語) ... 5教科 10講座から1講座
 - 選択 B (音楽・美術・保体・技家) 4教科 8講座から1講座
 - 後期 選択 A・Bは同じ
 - 選択 C (国語・社会・数学・理科・英語・音楽・美術・保体) 8講座から1講座

	【3年】前期 4時間 後期 5時間		
前期	選択 A (国語・社会・数学・理科・英語) ... 5教科	7講座から1講座	
	選択 B (国語・社会・数学・理科・英語) ... 5教科	7講座から1講座	(選択Aと異なる教科)
	選択 C (音楽・美術・保健・技家) 4教科	6講座から1講座	
	選択 D (音楽・美術・保健・技家) 4教科	6講座から1講座	(選択Cと異なる教科)
後期	選択 A B C Dは同じ		
	選択 E (国語・社会・数学・理科・英語・音楽・美術・保健) 8教科	9講座から1講座	(選択A B C Dと異なる教科)

- 生徒の指導に生かせる評価・評定の研究
- ・評価規準
- ・通知票
- ・習熟度表

(3) 研究の成果と課題

成果

教師は、指導方法や指導体制の工夫・改善の研究を通して、より深い教材研究や準備ができ、学習の質が上がり、一人一人への支援が充実した。

教科において、数学では、一単元終了後、少人数習熟度別学習をに行った。自己評価表の感想では、「自分に合った内容がよかった」「人数が少ないので質問がよくできた」「よくわかるようになった」など、おおむね好評であった。

理科での少人数授業では、「実験がよくできてよい」などの感想があり、前向きな取組が感じられた。また、教師も一人一人にかかわる時間が増え、余裕を持って指導ができた。

英語では、一人一人の能力に合わせた指導ができた。生徒は質問しやすいと感じている。

選択教科では、可能な限り講座数の拡大を図った。生徒の能力にあった選択をするためのオリエンテーションや個人面談が大切である。

教育課程外では、放課後の補充学習を行った。多くの生徒が意欲的に参加できた。

初年度のため、学力についての具体的データ比較はできていない。来年度は可能な限り数値的な検証に取り組んでみたい。

課題

今年度の研究を継続させ、平成16年度は次のような点を中心に研究を進めていきたい。

- 基礎・基本の定着や個に応じたきめ細やかな指導を効果的に行うための指導方法
- ・指導体制の工夫・改善のために：
 - 全教科授業研究、特にTT授業、少人数習熟度別授業などの授業研究を通して有効な指導方法
 - 各教科の評価を指導に生かし、指導と評価の一体化を図るための方法
 - 選択教科の充実
 - 外部講師の活用
 - 教育課程外の有効な取組
 - 2学期制を生かした教育課程
 - 「学力向上」のための生活指導
 - 学校と家庭との連携

(4) 研究成果の普及の方策

「授業公開」研修会

- ・日 時 平成16年2月5日(木) 13:35~16:00
- ・場 所 倉敷市立連島中学校各教室
- ・テーマ 「自ら学び、考え、解決しようとする力をもった生徒の育成」
～基礎・基本の徹底、個に応じた指導の充実、選択幅の拡大、評価等～
- ・対 象 連島中学校区小学校教員
倉敷市立中学校教員
倉敷市内学力向上フロンティアスクール
倉敷教育事務所管内学力向上フロンティアスクール
- ・内 容
 - 【授業公開】
 - 【全体研修会】
 - 本年度の研究のまとめ
 - 発表1 「『少人数指導の手引き』作成に関わって」
 - 発表2 「数学科少人数・習熟度別授業の実践」

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 その他

【研究教科】 (全教科) 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント(都道府県教育委員会記入)】

2学期制を取り入れた授業時数の確保及び選択幅の拡大による個に応じた指導の実践